

公益財団法人 全国商業高等学校協会 主催
文部科学省 後援

令和7年度 第100回 簿記実務検定試験 第1級 原価計算

(令和7年6月22日実施)

時間 13時10分から14時40分 (制限時間90分)

注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、問題を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は1ページから9ページまであります。
- 3 問題用紙の落丁や印刷が不鮮明である場合には、挙手をして監督者の指示に従いなさい。なお、問題についての質問には応じません。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 途中退室は原則できません。
- 6 試験終了後、問題用紙も回収します。

受 験 番 号

1

次の各問いに答えなさい。

- (1) 佐賀製作所の当期（令和6年／月／日から令和6年／2月3／日まで）における下記の貸借対照表（一部）と資料により、次の製造原価報告書の（ア）から（ウ）に入る金額を求めなさい。

製造原価報告書	
佐賀製作所	令和6年／月／日から令和6年／2月3／日まで（単位：円）
I 材料費	()
II 労務費	(ア)
III 経費	(イ)
当期製造費用	8,761,000
期首仕掛品棚卸高	()
合計	()
期末仕掛品棚卸高	()
当期製品製造原価	(ウ)

貸借対照表（一部）			
佐賀製作所	令和6年／2月3／日		（単位：円）
材 料	482,000	未払賃金	291,000
仕 掛 品	463,000		

資 料					
① 素 材	期首棚卸高	¥ 462,000	当期仕入高	¥ 2,819,000	
	期末棚卸高	¥ 387,000			
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥ 91,000	当期仕入高	¥ 425,000	
	期末棚卸高	¥			
③ 賃 金	前期未払高	¥ 304,000	当期支払高	¥ 2,986,000	
	当期未払高	¥			
④ 給 料	当期消費高	¥ 854,000			
⑤ 退職給付費用	当期消費高	¥ 310,000			
⑥ 外注加工賃	前期未払高	¥ 85,000	当期支払高	¥ 792,000	
	当期前払高	¥ 60,000			
⑦ 減価償却費	当期消費高	¥ 260,000			
⑧ 電 力 料	基本料金	¥ 30,000			
	当期使用量	12,400kWh	単価／kWhあたり	¥ 30	
	電力料の計算方法は、基本料金に当期使用料を加算して求める。				
⑨ 仕 掛 品	期首棚卸高	¥ 426,000	期末棚卸高	¥	

- (2) 愛知工業株式会社は、等級別総合原価計算を採用している。同社では、1級製品と2級製品を製造しており、単純総合原価計算によって総合原価を計算したあと、等級別製品の製造原価を計算している。次の資料によって、1級製品の製造原価を求めなさい。

ただし、i 等価係数は、各製品の1個あたりの重量を基準としている。

ii 製品を製造するときに、減損および仕損じは発生していないものとする。

資 料

① 仕掛品勘定

		仕 掛 品		
前 月 繰 越	558,000	諸 口 ()		
材 料	2,380,000	次 月 繰 越	634,000	
労 務 費	1,661,000			
経 費	739,000			
	<u>5,338,000</u>			<u>5,338,000</u>

② 製品1個あたりの重量と等級別完成品数量

等級別製品	1個あたりの重量	完成品数量
1級製品	300g	2,500個
2級製品	240g	3,000個

- (3) 単純総合原価計算を採用している大分製作所の次の資料から、月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

iii 正常減損は製造工程の始点で発生しており、正常減損費は完成品と月末仕掛品の両方に負担させる。

資 料

① 生産データ

月初仕掛品	500kg (加工進捗度40%)
当 月 投 入	2,400kg
合 計	<u>2,900kg</u>
月末仕掛品	800kg (加工進捗度50%)
正 常 減 損	<u> </u> kg
完 成 品	<u>2,000kg</u>

② 月初仕掛品原価

素材費	¥ 450,000
加工費	¥ 280,000

③ 当月製造費用

素材費	¥ 2,198,800
加工費	¥ 3,212,000

- (4) 標準原価計算を採用している鹿児島製作所の当月における下記の資料により、次の仕掛品勘定の(ア)から(ウ)に入る金額を求めなさい。

ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ii 仕掛品勘定への記帳方法は、パーシャル・プランによっている。

仕 掛 品	
前月繰越	1,680,000
材料 (イ)	
労務費 (ウ)	
製造間接費	5,670,000
作業時間差異 (ウ)	
能率差異	126,000
	()
	()
製品 (ア)	
材料消費価格差異	246,000
材料消費数量差異	42,000
賃率差異 (ウ)	
予算差異	70,000
操業度差異	140,000
次月繰越	()
	()

資 料

① 標準原価カード

A製品 標準原価カード			
	標準単価	標準消費数量	金額
直接材料費	¥ 420	6 kg	¥ 2,520
	標準賃率	標準直接作業時間	
直接労務費	¥ 1,400	2時間	¥ 2,800
	標準配賦率	標準直接作業時間	
製造間接費	¥ 2,100	2時間	¥ 4,200
	製品/個あたりの標準原価		¥ 9,520

② 生産データ

月初仕掛品	250個 (加工進捗度60%)
当月投入	1,350個
合計	1,600個
月末仕掛品	200個 (加工進捗度40%)
完成品	1,400個

③ 実際直接材料費 ¥3,690,000 (実際消費数量 8,200kg)

④ 実際直接労務費 ¥3,770,000 (実際直接作業時間 2,600時間)

- (5) 山梨製作所の次の資料をもとにおこなわれた、ある高校の授業における先生と生徒の下記の会話を読み、 のなかに入る金額または数量を記入しなさい。

資 料

- ① 販売単価 ￥4,000
② 製造費用
 変動製造費（製品／個あたり） ￥1,500
 固定製造間接費 ￥2,470,000
③ 販売費及び一般管理費
 変動販売費（製品／個あたり） ￥300
 固定販売費及び一般管理費 ￥962,000

ある高校の授業における会話文

先生： 直接原価計算の目的や大まかな内容については、前回の授業で学習しました。今日は実際の数値を用いて金額等の変化を確認してみましょう。まず、資料を見て、今月の販売数量が2,700個だった場合の直接原価計算による損益計算書を作成して、営業利益を求めてください。

生徒A： はい、 ア 円です。

先生： 正解です。では、次にCVP分析をしましょう。損益分岐点について覚えていますか。

生徒B： はい、売上高と総原価の金額が一致している点、つまり、営業利益が零（0）になる点のことです。

先生： 素晴らしいです。では、損益分岐点における売上高と販売数量を求めてください。

生徒C： はい、損益分岐点における売上高は イ 円となり、販売数量は（ ）個です。

先生： 正解です。ところで、最近、物価高騰のニュースが多く報じられていますが、この企業においても物価高騰の影響を受けて、変動製造費のみが製品／個あたり8%高くなったとします。もし、販売単価が変わらない場合、目標営業利益2,600,000円を達成するための販売数量は毎月より何個多く販売する必要がありますか。

生徒A： はい、変動製造費が／個あたり120円高くなるので、目標営業利益2,600,000円を達成するための販売数量は毎月より、 ウ 個多く販売する必要があります。

先生： 正解です。みなさん、よくできましたね。

- (6) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

製品の原価を構成する要素のことを原価要素といい、その発生形態によって、材料費・労務費・経費の三つの要素に分類される。その消費高を計算する手続きを原価の ア という。

この手続きにより、把握された消費高のうち、各種の製品を製造するために共通に消費され、特定の製品の原価として直接集計することができない原価要素を製造間接費といい、一定の基準によって、各製品に割りあてる手続きが必要となる。この手続きを イ という。

1. 賦 課 2. 配 賦 3. 製品別計算 4. 費目別計算

2

福岡工業株式会社は工程別総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料によって、

- (1) 工程別総合原価計算表を作成しなさい。
- (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第1工程半製品勘定を完成しなさい。
 ただし、
 - i 第1工程の完成品原価は、すべて第1工程半製品勘定に振り替えている。
 - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第1工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。
 - iii 加工費は第1工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
 - v 第1工程半製品勘定の前月繰越高は次のとおりである。なお、第1工程半製品は総平均法により半製品単価を計算し、第2工程仕掛品勘定と売上原価勘定に振り替えた。

前月繰越 750個 @ ¥1,850 ¥1,387,500

資 料

a. 生産データ

	第1工程		第2工程
月初仕掛品	500個 (加工進捗度50%)	月初仕掛品	400個 (加工進捗度60%)
当月投入	2,200個	当月投入	2,800個
合 計	2,700個	合 計	3,200個
月末仕掛品	200個 (加工進捗度50%)	月末仕掛品	200個 (加工進捗度40%)
完 成 品	2,500個	完 成 品	3,000個

b. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

	第1工程	第2工程	補助部門
素 材 費	¥2,039,400	—	—
労 務 費	¥1,548,000	¥2,160,000	¥163,000
経 費	¥ 529,000	¥1,148,380	¥ 26,000

② 部門共通費配賦額

第1工程	¥326,700
第2工程	¥762,300
補助部門	¥121,000

③ 補助部門費配賦割合

第1工程	60%
第2工程	40%

c. 月初仕掛品原価

第1工程	¥ 712,500 (素材費 ¥450,000 加工費 ¥262,500)
第2工程	¥1,080,000 (前工程費 ¥744,000 加工費 ¥336,000)

- d. 当月中に第1工程半製品2,800個を次工程へ引き渡し、100個を外部に販売した。

問題を読みやすくするために，このページは空白にしてあります。

3 は次のページにあります。

3

個別原価計算を採用している宮崎製作所の下記の取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月5日の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 仕掛品勘定・製造間接費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）とC製品（製造指図書#3）の原価計算表を作成しなさい。
ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	950個	@ ¥2,780	¥2,641,000
工場消耗品	500〃	〃	60 ¥ 30,000
仕 掛 品（製造指図書#1）			¥3,127,000（原価計算表に記入済み）

 ii 素材の消費高の計算は移動平均法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法による。
 iii 賃金の消費高の計算は、実際平均賃率を用いている。
 iv 製造間接費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。なお、年間製造間接費予算額は¥31,200,000であり、年間予定直接作業時間（基準操業度）は62,400時間である。
- (4) 製造間接費配賦差異における次の資料から、ア 予算差異の金額とイ 操業度差異の金額を求めなさい。
なお、解答欄の（ ）のなかには借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。

資 料

- a. 製造間接費については、公式法変動予算により予算を設定して予定配賦をおこなっている。
- b. 月間の製造間接費予算額は、変動費率 ¥300 固定費予算額 ¥1,040,000 である。
- c. 当月の実際直接作業時間は5,100時間であった。
- d. 当月の実際製造間接費発生額は ¥2,562,000 であった。

取 引

6月 5日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材650個を消費して製造を開始した。

10日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	1,700個	@ ¥2,820	¥4,794,000
工場消耗品	2,900〃	〃	60 ¥ 174,000

13日 C製品（製造指図書#3）の注文を受け、素材1,000個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額	¥7,824,000
うち、控除額	所得 税 ¥548,000
	健康保険料 ¥329,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は350個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

- ② 当月の賃金実際消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、当月の実際平均賃率は作業時間/時間あたり ¥1,400 であった。

製造指図書#1	1,950時間
製造指図書#2	1,430時間
製造指図書#3	1,720時間
間 接 作 業	300時間

- ③ 直接作業時間によって、製造間接費を予定配賦した。
- ④ 健康保険料の事業主負担分 ¥329,000 を計上した。
- ⑤ 当月の製造経費消費高を計上した。
- | | | |
|-------|-------|----------|
| 電力料 | 当月支払高 | ¥581,000 |
| | 当月測定高 | ¥590,000 |
| 保険料 | | ¥210,000 |
| 減価償却費 | | ¥830,000 |
- ⑥ A 製品（製造指図書 #1）200 個が完成した。
- ⑦ 製造間接費の予定配賦額と実際発生額との差額を、製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。

4

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当 座 預 金	製 品	A 組 製 品	B 組 製 品
素 材	所 得 税 預 り 金	健康保険料預り金	賃 金
減 価 償 却 費	仕 掛 品	A 組 仕 掛 品	B 組 仕 掛 品
第 1 製 造 部 門 費	第 2 製 造 部 門 費	材料消費価格差異	売 上 原 価
本 社	工 場		

- a. 組別総合原価計算を採用している岐阜製作所は、月末に組別総合原価計算表を次のとおり作成し、各組の完成品原価を計上した。

組別総合原価計算表 (一部)

令和6年6月分

摘 要	A 組	B 組
組直接費 素材費	2,930,000	3,264,000
完 成 品 原 価	5,400,000	6,200,000
完 成 品 数 量	1,500個	2,000個
製 品 単 価	¥ 3,600	¥ 3,100

- b. 単純総合原価計算を採用している長崎製作所は、月末に機械装置に対する減価償却費の月割額を消費高として計上した。ただし、1年分の減価償却高は ¥1,656,000 である。
- c. 長野製作所は、会計期末にあたり、材料消費価格差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、材料消費価格差異勘定の前月繰越高は、¥27,000 (貸方) であり、当月の素材の予定消費高 ¥2,016,000 と実際消費高 ¥2,031,000 との差額は、材料消費価格差異勘定に振り替えられている。
- d. 個別原価計算を採用している熊本製作所は、製造間接費について部門別計算をおこなっている。次の資料により、製造部門費の当月分を予定配賦した。ただし、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	年間製造間接費予算額	年間予定直接作業時間	当月実際直接作業時間
第1製造部門	¥ 8,820,000	14,700時間	1,300時間
第2製造部門	¥ 11,745,000	26,100時間	2,100時間

- e. 工場会計が独立している静岡製作所の本社は、工場の従業員の賃金 ¥1,570,000 について、所得税額 ¥93,000 および健康保険料 ¥48,000 を控除した正味支払額を小切手を振り出して支払った。ただし、所得税預り金勘定および健康保険料預り金勘定は本社のみ設けてある。(本社の仕訳)

第100回 簿記実務検定 1級 原価計算〔解答用紙〕

1

(1)

ア	¥	イ	¥
ウ	¥		

(2)

¥

(3)

¥

(4)

ア	¥	イ	¥
ウ	¥		

(5)

ア	円	イ	円
ウ	個		

(6)

ア	イ

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
---------	--	---------	--	---------	--	---------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

工程別総合原価計算表

令和6年6月分

摘 要	第 / 工 程	第 2 工 程
工程個別費 素 材 費		——
前工程費	——	5,544,000
労 務 費		
経 費		
部 門 共 通 費 配 賦 額		
補 助 部 門 費 配 賦 額		
当 月 製 造 費 用		
月 初 仕 掛 品 原 価	712,500	1,080,000
計		
月 末 仕 掛 品 原 価		510,680
工 程 完 成 品 原 価		
工 程 完 成 品 数 量	2,500個	3,000個
工 程 単 価	¥	¥

(2)

¥

(3)

第 / 工 程 半 製 品

前 月 繰 越	1,387,500	第 2 工 程 仕 掛 品 (	)
第 / 工 程 仕 掛 品 (	)	売 上 原 価 (	)
		次 月 繰 越 (	)
	(	)	(

2

得点

3

(1)

	借 方	貸 方
6月 5日		

(2)

仕 掛 品

6/ 1 前 月 繰 越 3,127,000

製 造 間 接 費

(3) 製造指図書#／

原 価 計 算 表

直接材料費	直接勞務費	製造間接費	集 計	
			摘 要	金 額
2,363,000	564,000	200,000	直接材料費	
			直接勞務費	
			製造間接費	
			製造原価	
			完成品数量	個
			製品単価	¥

製造指図書#3

原 価 計 算 表

直接材料費	直接勞務費	製造間接費	集 計	
			摘 要	金 額
			直接材料費	
			直接勞務費	

(4)

ア	予 算 差 異 $\mathcal{H}$	(借 方 ・ 貸 方)
イ	操 業 度 差 異 $\mathcal{H}$	(借 方 ・ 貸 方)

※（借方・貸方）のいずれかを○で囲むこと

3
得点

4		借	方	貸	方
	a				
	b				
	c				
	d				
	e				

4 得点	
---------	--